

令和6年度 城東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 平均正答率は全国と比較して、+0.9ポイントであった。過去2年間は平均正答率が下回っていたので本年度は取組みに一定の成果がみられた。一方で「言葉」の領域においては+3.9ポイントであるが、「話す聞く」の領域については-2.1ポイントであり、この領域においては今後取組みを重点的に行う必要がある。平均無解答率は全国と同数値であった。

＜数学＞ 平均正答率は全国と比較して、-0.5ポイントであった。「データの活用」の領域は+3.3ポイントであったが、「関数」の領域が-2.9ポイント、「数と式」の領域が-1.6ポイントであり、これらの領域においては今後取組みを重点的に行う必要がある。平均無解答率は全国と比較して+0.5ポイントであり、解答する力を改善させたい。

【今後に向けて】

○授業規律が定着し、落ち着いた授業環境にあることが学力向上につながっていると考えられる。今後は授業規律を崩すことなく、国語・数学ともに記述式の問題に対応できるよう、単発な知識の習得に偏らず、知識を用いて応用問題に対応できる柔軟性を養いたい。主体的・対話的で深い学びへの授業改善を進めていきたい。